

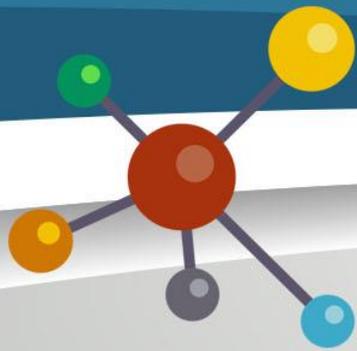


「大学における学修評価のあり方再考 —遠隔授業における評価方法—」

熊本保健科学大学FDセミナー

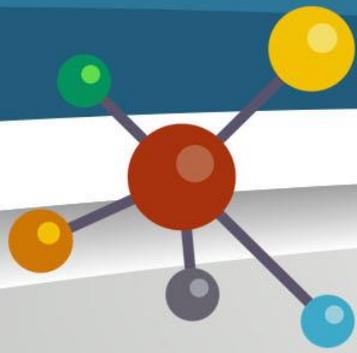
田中正弘（筑波大学）

3月25日（金）13時30分～15時00分



目次

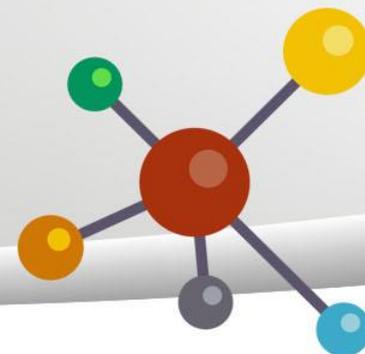
1. 本発表の目的
2. 遠隔授業における評価方法
3. 学生の学修を促進する評価
4. 成績評価ガイドラインの必要性
5. まとめ

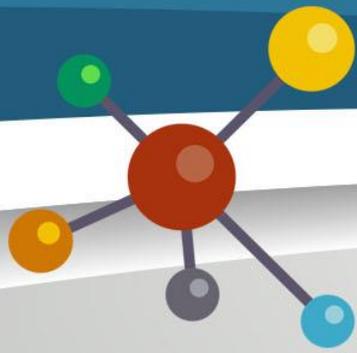


本発表の目的

1. 遠隔授業における評価方法として、暗記中心の筆記試験ではなく、他の評価方法（特にポートフォリオ評価）の導入を検討する。
2. 「修学ポートフォリオ」の活用によって、学生の「自己省察」（何ができて、何ができないか、そして、これから何をすべきか）を促したい。
 - なぜなら、自らの学力を正しく自己評価する能力は、知識の陳腐化が早い21世紀を生き抜くのに必要な、「学び続ける力」につながるため。

2. 遠隔授業における評価方法

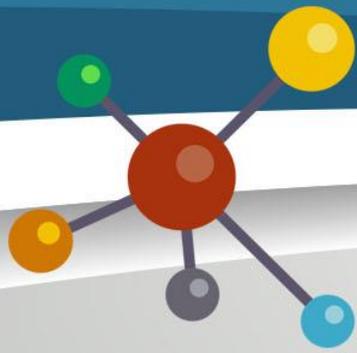




遠隔授業における評価方法

- 遠隔授業（オンライン）において、暗記中心の筆記試験（客観式テスト）を実施すると、解答の検索や学生間の相談などの不正行為を防ぐのが難しい。
- 対処法
 - 定期試験だけは教室（オンサイト）で行う。
 - CBT（Computer Based Testing）専用の教室を確保する。
 - オンラインで行う場合は、下記のような工夫を行う。
 - 各質問の解答時間を数分単位で区切る。
 - 学生が解答している様子をカメラで見えるようにする。
 - バーチャル背景は禁止
 - 客観式テストではなく、論述式テストを用いる。

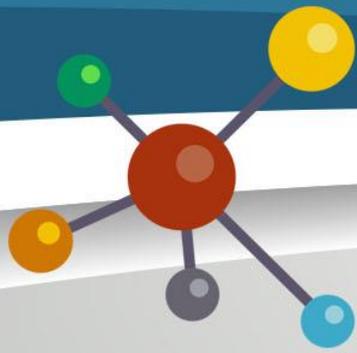
出典：京都大学（2022）「CONNECT」（<https://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/connect/teachingonline/assessment.php>）



論述式テスト

- 論述式テストとは、質問に対して、ある程度まとまった文章で解答させるもの
 - 論述式のメリットは、思考力や表現力を測れること
 - 論述式のデメリットは、評価の信頼性・客観性が低いこと
- オンラインの論述式テストでは、
 - 教科書やノートなどの使用を認める。
 - 検索・相談されても簡単には答えられない問題を作成する。
 - 正誤問題で深い理解を確認する（と良い）。
 - 論拠を記入させることで、理解を確認するとともに、不正を困難にする。

出典：名古屋大学（2020）「オンライン授業で試験と成績評価を行うための教授法」
(<https://office.ilas.nagoya-u.ac.jp/wp-content/uploads/2020/06/tips2.pdf>)

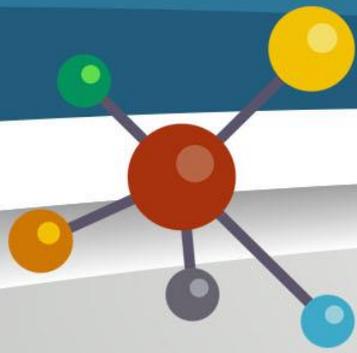


正誤問題の例

- マイコバクテリウム属に関する各問の正誤を○か×で答えよ。
また、**その理由を論述せよ（各問の解答時間は5分）**。
- 1) 結核菌感染の多くは無症状である。
- 2) 免疫細胞に貪食された結核菌は感染力を持つ。
- 3) 抗酸菌は菌体表面に多くの脂質を持ち、消毒抵抗性が高い。
- 4) 結核菌はグラム染色で染色されやすい。
- 5) 抗酸菌はZiel-Neelsen染色で青色に染色される。
- 6) BCGは結核に対する死菌ワクチンである。
- 7) BCGワクチンの予防効果は成人より小児のほうが高い。
- 8) 粟粒結核に結核性髄膜炎は合併する。
- 9) 結核の治療は多剤併用である。

学生を九つのグループに分ける！

出典：様々な医療福祉関係の資格試験に挑むブログ (<http://iryoukankeisikaku.com/blog-entry-169.html>)



正誤問題の解答例

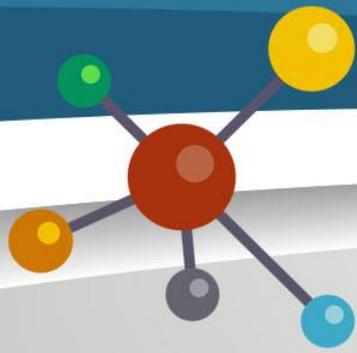
2) 免疫細胞に貪食された結核菌は感染力を持つ。

• 解答：○

• 理由：

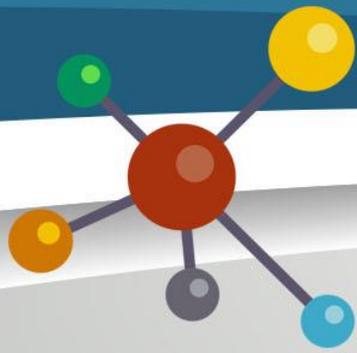
- 結核菌は、細菌を殺す人間の主要な免疫細胞であるマクロファージ（食細胞）の中で繁殖できるという、極めて特殊な機構をもつ。この機構は結核菌がマクロファージのリソソームとファゴソームの融合を阻害する能力を持つことによる。ただし、それでも大半の正常な免疫能力をもつ健常者では、T細胞の助けを借りてマクロファージごと細菌を殺して封じ込めるため、無症状か軽い症状ですむが、免疫能力の劣った人間には重い症状が発症する。

出典：様々な医療福祉関係の資格試験に挑むブログ (<http://iryoukankeisikaku.com/blog-entry-169.html>)



不正のチェック

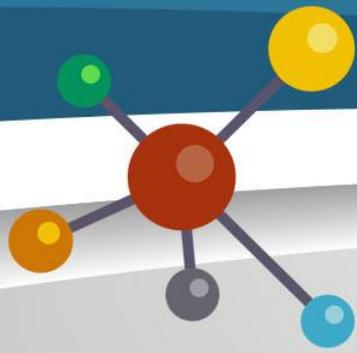
- 解答者が検索・相談した結果を理由の欄に記入した場合、複数名がほぼ同じ解答をする傾向が見られる。
 - 質問をネットで検索してみることをお勧めする。
- 不正防止の工夫：
 - 解答者によって、表示される問題を異なるものにする。
 - 問いが9つあれば、解答者を9グループにランダムに振り分ける。
- 注意点：
 - 教科書やノートの使用を認める場合は、教科書に書かれていることや板書した内容をそのまま出題するのは避ける。
- 不正行為をしないよう、学問的誠実性について、事前に説明しておくことも重要



トラブルへの事前準備

- オンライン試験にトラブルはつきもの
 - 試験当日にネットが繋がらなくなった。
 - 予備日を設定する。
 - 画面に試験問題が表示されない。
 - 予備日を設定するとともに、学内のコンピューターの利用を認める。
 - 解答を送ったのに届いていない。
 - 送信が確認できる証拠を送ってもらう。
- トラブルが生じたときの連絡先を共有しておく
- 事前にリハーサルをしておくことも重要

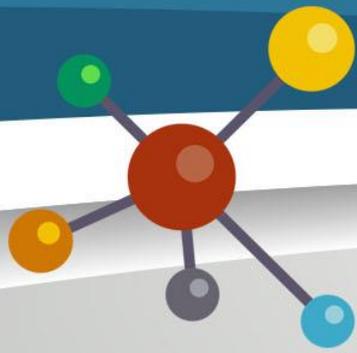
出典：名古屋大学（2020）「オンライン授業で試験と成績評価を行うための教授法」
(<https://office.ilas.nagoya-u.ac.jp/wp-content/uploads/2020/06/tips2.pdf>)



学問的誠実性

- 学問的に誠実であることの重要性を説明しておく。
 - 学問的に不誠実であると、どのような問題が発生し、いかなる罰が科せられるのか、その深刻さを説明する。
 - 単なるカンニングの問題でかたづけけない。
 - アメリカの大学では、倫理規定を遵守するという誓約書に署名させる。
- 何が不誠実な行為なののかも説明しておく。
 - 剽窃や不適切な協働作業、複製、不正行為など
 - 学生は何をしたら剽窃なのか、知らない恐れがある。
 - 意図せぬ剽窃の例を明示すると良い。
 - 剽窃チェッカーを用いて剽窃を確認することをアナウンスしておくことは、不正を防ぐことにつながる。

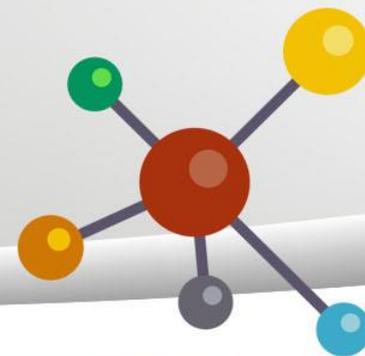
出典：大阪大学（2022）「オンラインで学習を評価するための10のポイント」
（<https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/project/onlinelecture/tips02.html>）、京都大学
（2022）「CONNECT」（<https://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/connect/teachingonline/assessment.php>）

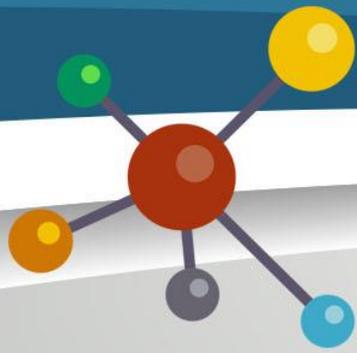


他の評価方法

- 定期試験以外の評価方法を加える。
 - 定期試験の代わりに、レポート課題とする。
 - 授業の終わりに毎回行う、小テストの結果を加味する
 - パフォーマンス評価を行う。
 - 授業中の質疑応答への参加、学生間の議論への参加などを評価する。
 - 発表内容で評価する。
 - 実技の結果で評価する。
 - ポートフォリオ評価を行う。
 - ポートフォリオ評価は形成的評価で、**学生の学修を促進する評価**である。

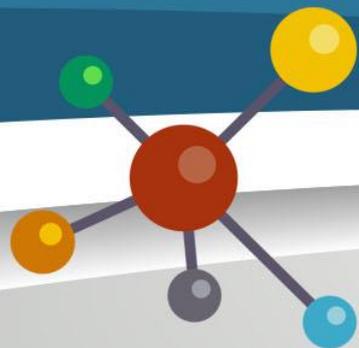
3. 学生の学修を促進する評価





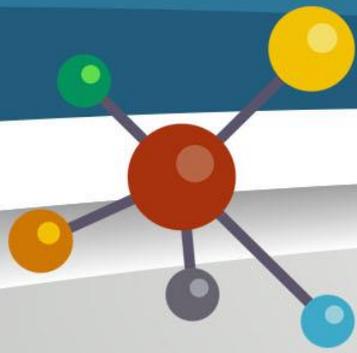
学生の学修を促進する評価

- 学生の学修を促進する評価とは、自分は何ができて、何ができないかという評価結果を、これから自分は何をすべきかにつなげられるような評価を意味する。
- この評価に必要な要素は、下記の通りである。
 - ① 科目の到達目標を学生が理解している。
 - ② 評価が学修の途中で行われる（形成的評価）。
 - ③ 評価の情報を学生に伝える。
 - ④ 評価に学生も加わる。
 - ⑤ 評価の情報を学びの改善に用いる。



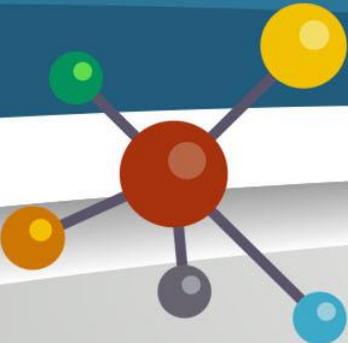
①科目の到達目標を学生が理解している

- 科目の到達目標を明確化する（シラバスに記載）。
 - （例）学生は〇〇の知識を用いて、△△ができる。
 - 主語は「学生」で、「～できる」で終わる。
- その到達目標を学生が理解する。
- 到達目標は平易な記述を心がける。
- ルーブリックなどの形で提示する。
- ③評価の情報を学生に伝える（意外と難しい）。
 - ※到達目標を学生が正確に理解していない場合は、自己評価に問題が生じる。



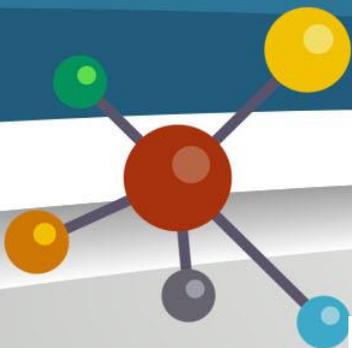
②評価が学修の途中で行われる

- 学修のための評価は学修の途中で行う。
 - その評価の情報を学びの改善に用いるため。
 - ※「学修の途中」とは、科目レベルなら、学期の途中、プログラム・レベルなら、学期末など
- 教員は学生の学修過程を観察し、その状況を評価し、かつ、その結果を学生に適宜伝えていく必要がある。
 - 教員のフィードバックが不可欠といえる。
- ④評価に学生も加わる（その理由は後述する）。
 - 自己評価の指導が不可欠といえる。



⑤ 評価の情報を学びの改善に用いる

- 自己の理解
 - 自己評価を正しくできる学生は自らの学びの利点や欠点を知ることができる。
- 教員の役割
 - 学生が自らの利点を伸ばしつつ、欠点も改める方法（学びの改善）を探求できるようにする。
- 評価の小道具
 - 自己評価を正しく行うための便利な「小道具」に、ルーブリックがある。

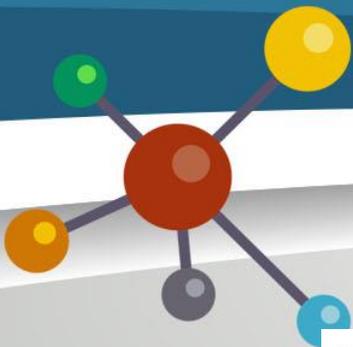


ルーズブリックの例 (1/2)

< 実習への基本的態度 >

評定 項目	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	削除した理由
出席・連絡・時間厳守	<input type="checkbox"/> 遅刻・早退・欠席があり、その際連絡もなかった <input type="checkbox"/> 業務における集合時間を厳守できないことが2~3度々あった	<input type="checkbox"/> 遅刻・早退・欠席があったが、その際事後連絡があった <input type="checkbox"/> 業務における集合時間を厳守できないことが2~3度あった	<input type="checkbox"/> 遅刻・早退・欠席があり、その際事前連絡があった <input type="checkbox"/> 業務における集合時間をほぼ厳守できた	<input type="checkbox"/> 遅刻・早退・欠席がなかった <input type="checkbox"/> 業務における集合時間を常に厳守できた	
マナー	<input type="checkbox"/> 挨拶・言葉遣い・身だしなみ等、すべてにおいて実習生として問題があった	<input type="checkbox"/> マナーのうち、1つできた <input type="checkbox"/> 挨拶 <input type="checkbox"/> 言葉遣い <input type="checkbox"/> 身だしなみ	<input type="checkbox"/> マナーのうち、2つできた <input type="checkbox"/> 挨拶 <input type="checkbox"/> 言葉遣い <input type="checkbox"/> 身だしなみ	<input type="checkbox"/> マナーのうち、すべてできた <input type="checkbox"/> 挨拶 <input type="checkbox"/> 言葉遣い <input type="checkbox"/> 身だしなみ	
意欲と態度	<input type="checkbox"/> 質問が全くなかった <input type="checkbox"/> 積極性に欠けていた <input type="checkbox"/> 指導に対して不適切な表情や態度が度々あった	<input type="checkbox"/> 促せば質問があった <input type="checkbox"/> 促すと積極性がみられた <input type="checkbox"/> 促すと適切な表情や態度で実習に取り組むことができた	<input type="checkbox"/> 自発的な質問が多かった <input type="checkbox"/> ほぼ積極性がみられた <input type="checkbox"/> ほぼ適切な表情や態度で実習に取り組むことができた	<input type="checkbox"/> 常に自発的な質問があった <input type="checkbox"/> 常に積極性があった <input type="checkbox"/> 常に適切な表情や態度で実習に取り組むことができた	
課題(ディリーノート)への取り組み	<input type="checkbox"/> 課題を全くしなかった <input type="checkbox"/> 指導者の助言を全く反映できなかった <input type="checkbox"/> 指導者への報告なく提出の期限が遅れた	<input type="checkbox"/> 課題の内容が不十分であり、まとまりがなかった <input type="checkbox"/> 指導者の助言を反映できなかったが不十分であった <input type="checkbox"/> 指導者への報告はあったが、提出の期限が遅れた	<input type="checkbox"/> 課題の内容は十分であり、比較的まとまっていた <input type="checkbox"/> 指導者の助言がほぼ反映できた <input type="checkbox"/> 提出期限をほぼ守れた	<input type="checkbox"/> 課題の内容が十分であり、まとまっていた <input type="checkbox"/> 指導者の助言が常に反映できた <input type="checkbox"/> 提出の期限を常に守れた	

出典：熊本保健科学大学保健科学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻（2021）「学生成績報告書～臨床実習～」， 4頁



ループリックの例 (2/2)

【実習学生評価】

- ・評価欄の該当段階に、最終時評価を ○ で記してください。
- ・チェックボックスの該当するものにチェックを入れ、多く該当したレベルを ○ で記してください。
- ・**実習施設側の事情**により未実施となった項目は、評価欄を **══** にて削除してください。
評価欄を削除された際には、必ず理由もご記入ください。

<記入例>

項目	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	理由
連絡・時間厳守	<input type="checkbox"/> 遅刻・早退・欠席があり、その際連絡もなかった <input type="checkbox"/> 業務における集合時間を厳守できないことが度々あった	<input type="checkbox"/> 遅刻・早退・欠席があったが、その際遅れて連絡があった <input type="checkbox"/> 業務における集合時間を厳守できないことが2～3度あった	<input checked="" type="checkbox"/> 遅刻・早退・欠席があり、その際速やかに連絡があった <input checked="" type="checkbox"/> 業務における集合時間をほぼ厳守できた	<input type="checkbox"/> 遅刻・早退・欠席がなかった <input type="checkbox"/> 業務における集合時間を常に厳守できた	
コミュニケーション	<input type="checkbox"/> 挨拶や言葉遣い、態度等、実習生としてふさわしくなかった <input type="checkbox"/> コミュニケーション関係を築くことができなかった	<input type="checkbox"/> コミュニケーション態度のうち、1つはできた <input type="checkbox"/> 言葉遣い	<input type="checkbox"/> コミュニケーション態度のうち、2つはできた <input type="checkbox"/> 言葉遣い	<input type="checkbox"/> コミュニケーション態度のうち、3つ以上できた <input type="checkbox"/> 言葉遣い	スタッフと関わる機会がほとんどなかったため
	══				
	<input type="checkbox"/> 指導者への報告・相談なかった	<input type="checkbox"/> コミュニケーション関係 <input type="checkbox"/> 指導者への報告・相談	<input type="checkbox"/> コミュニケーション関係 <input type="checkbox"/> 指導者への報告・相談	<input type="checkbox"/> コミュニケーション関係 <input type="checkbox"/> 指導者への報告・相談	

出典：熊本保健科学大学保健科学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻（2021）「学生成績報告書～臨床実習～」，3頁

ポートフォリオの例

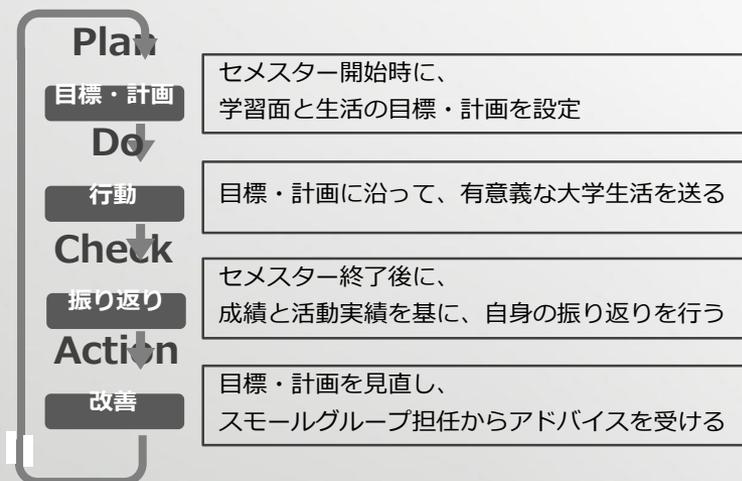
評価項目	評価の観点	評価対象	実習前の自己評価	実習中の自己評価	実習後の自己評価
複数患者担当実習	自己目標と学習内容の設定	実習記録（様式3）をもとにした学生の発言			
	実習時の参加姿勢	患者への態度と報告の状況			
	2日目の行動プランの立案	実習指導者への相談状況と実習記録（様式5）			
	実習記録の内容	実習記録（様式4）			
	下記の質問から、二つ選び、回答してください。 どの項目が自分の最も良い成果ですか？ それはなぜですか？ どの項目が自分の最も重要な成果ですか？ それはなぜですか？ どの項目が自分の最も満足な成果ですか？ それはなぜですか？ どの項目が自分の最も不満足な成果ですか？ それはなぜですか？ どの項目への取組が自分を最も成長させましたか？ それはなぜですか？				

出典 : Suskie, Linda (2009) *Assessing Student Learning: A Common Sense Guide, second edition*, San Francisco: Jossey-Bass.

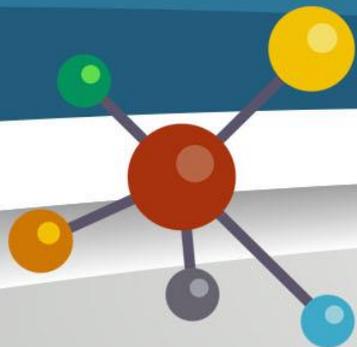
「修学ポートフォリオ」

「修学ポートフォリオ」を用いて、右図のPDCAサイクルを回すことにより、学生は①目的意識を持って大学生活を送ること、②達成できたこと・できなかったことに気づくこと、③それを踏まえて次の目標を設定すること、が可能となる。

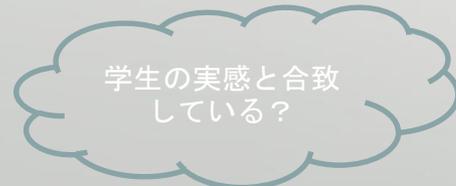
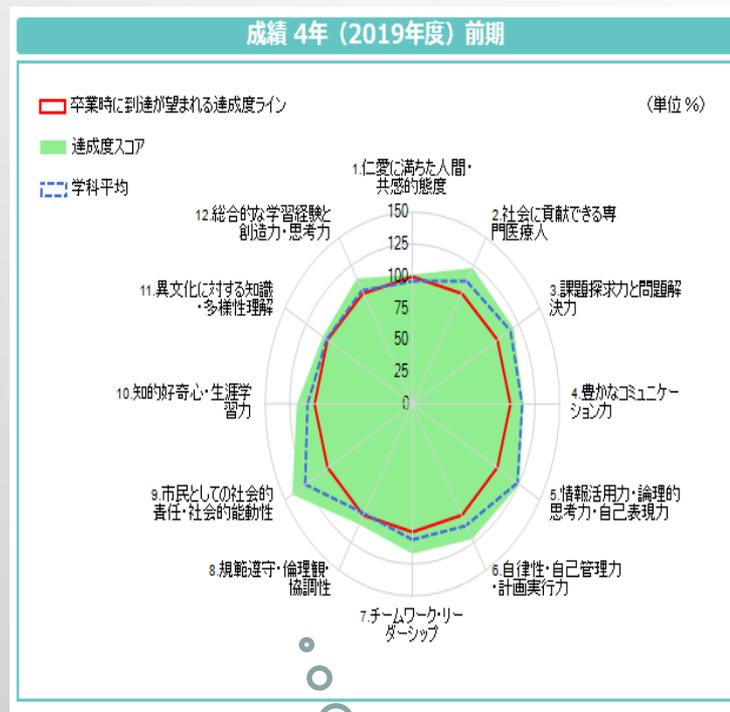
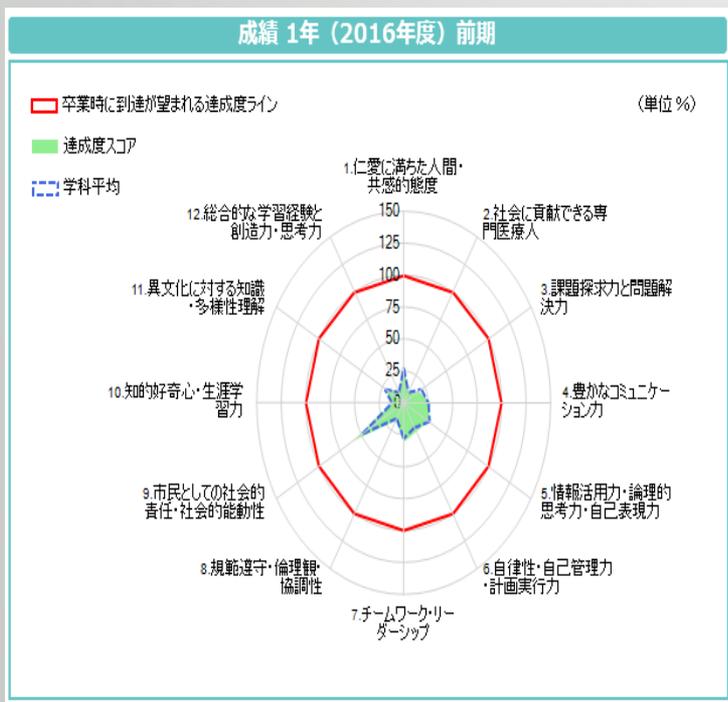
修学ポートフォリオは、「学生の学修を促進する評価」のためのツール



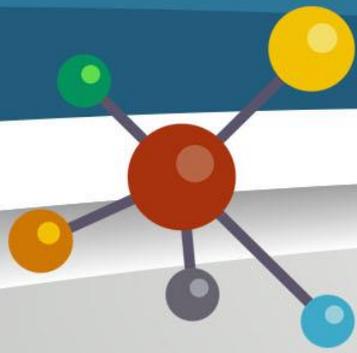
出典：貴学提供資料を基に発表者が作成



学修成果の可視化

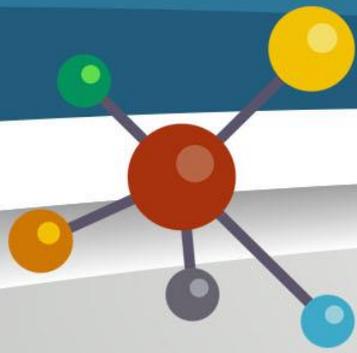


出典：貴学提供資料を基に発表者が作成



評価が困難なもの

- 可視化される12の技能・態度の中に、従来型のペーパーテストでは測るのが難しいものがある。
 - 1. 仁愛に満ちた人間・共感的態度
 - 4. 豊かなコミュニケーション力
 - 7. チームワーク・リーダーシップ
 - 8. 規則遵守・倫理観・協調性
 - 9. 市民としての社会的責任・社会的能動性
- 上記に関連する学生のパフォーマンスを観察し、それらを正しく評価することが望まれる。

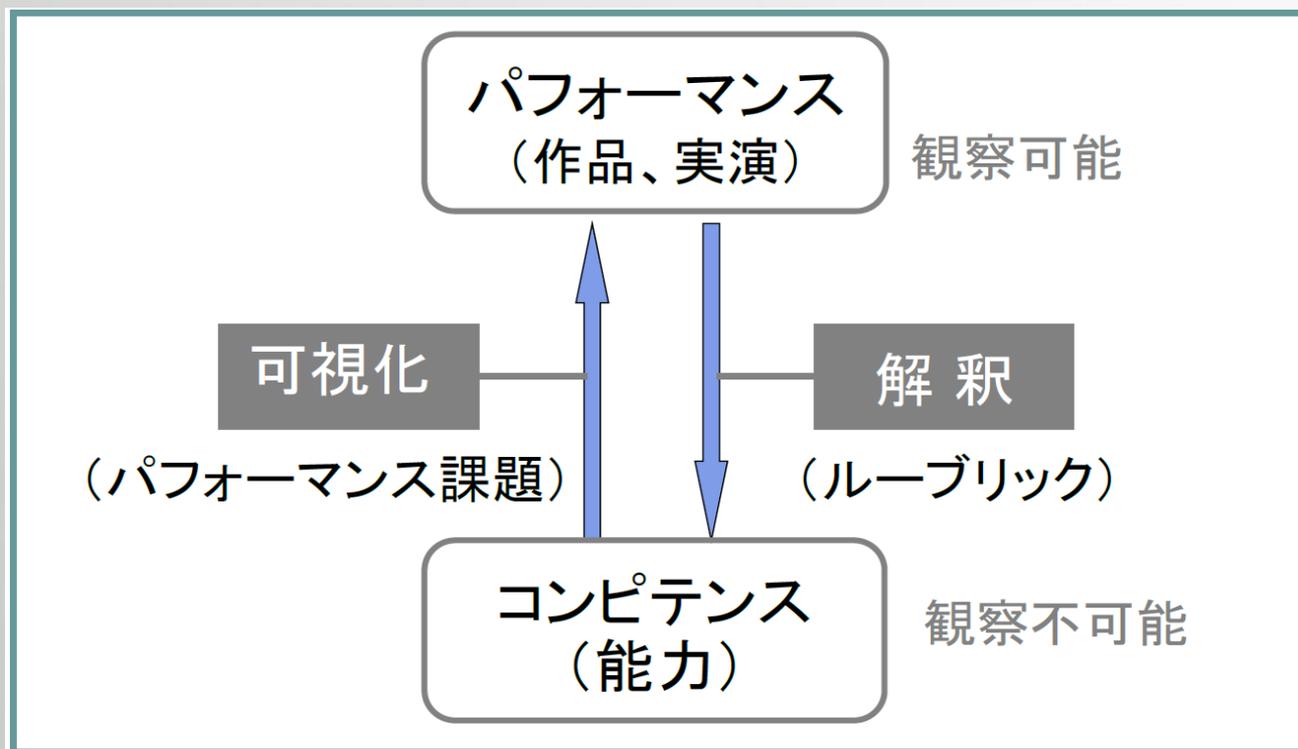


パフォーマンス評価

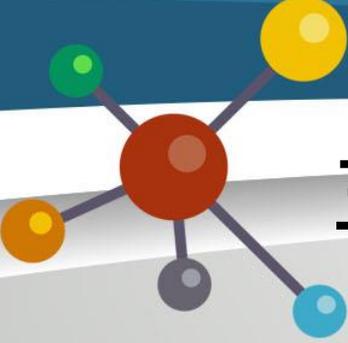
- 実習科目などで学生の活動を評価する場合に、「パフォーマンス評価」を行うことがある。
- パフォーマンス評価は、フィギュアスケートの採点方法に近いものである（松下 2013）。
 - 数分間、実際に演技させる。
 - 複数の専門家（審査員）が評価基準に従って、それぞれ採点する。

出典：松下佳代（2013）「学習成果の評価の方法—パフォーマンス評価を中心に」平成25年度（第16回）弘前大学FDワークショップ、13頁。

パフォーマンス評価の概念図

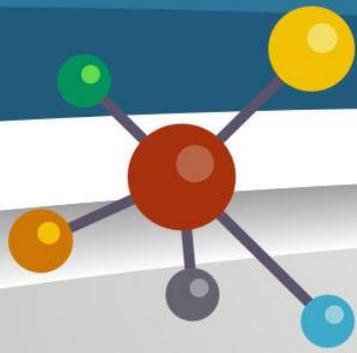


出典：松下佳代（2013）「学習成果の評価の方法—パフォーマンス評価を中心に」平成25年度（第16回）弘前大学FDワークショップ、11頁。



主観的評価を客観化する工夫

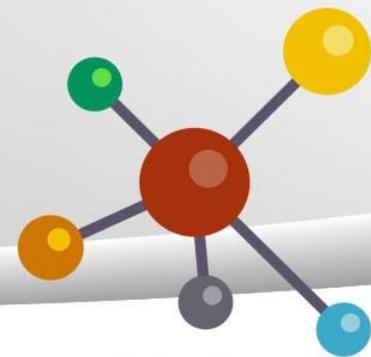
- ルーブリックを活用しても、パフォーマンス評価は主観的になりやすい。
 - 多くの人が評価することで、客観性を高める必要がある。
 - フィギュアスケートでは、複数人で評価し、最も高い評価と最も低い評価を除いた平均をとることで、評価の客観性を高めている。
- ※教員だけでなく、学生も評価者になってもらう。
 - そのために、評価方法に関する共通理解が重要となる。
 - 学生が自らの学力を正しく自己評価できるように、ポートフォリオやルーブリックなどに修正が必要となる。

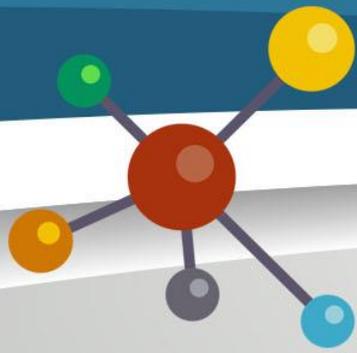


評価の課題

- 「学生の学修を促進する評価」は、成績評価が正しく行われていることを前提としている。
 - 可視化するデータ（成績評価）の質がよくなないと、学生にとって、有益な情報にならない。
- 事実、日本では、成績評価は大学教員の裁量に委ねられているため、評価基準が不統一、かつ曖昧であることが多い。
 - そこで、成績評価の妥当性と信頼性の向上のため、「ガイドライン」に沿った、組織的な評価の構築、および実施の徹底を提案したい。

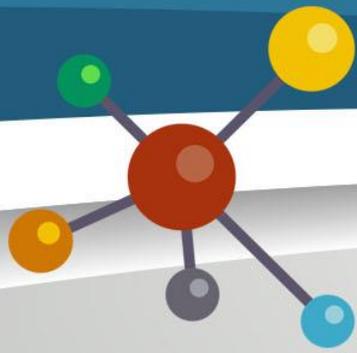
4. 成績評価ガイドラインの必要性





ガイドラインの必要性

- 成績評価ガイドラインは、なぜ必要か？
 - 認証評価のため？
 - 大学のため？
 - 教員のため？
 - 学生のため！！
- 学生のためのガイドライン
 - 成績評価に課題が多々あると、多くの学生に多大な不利益を及ぼす恐れがある。
 - よって、成績評価の妥当性と信頼性を高めることは、学生の利益を守ることと同義である。



成績評価に関する課題

- 成績評価の結果を全ての科目を通して眺めると、驚くほど結果にバラツキが見られる。
 - このことは、どの大学においても共通の問題として認識されていると思う。
 - 北海道大学は、「成績評価の公平性を確保し、学生および第三者に対する説明責任を果たす」、という方針に則って、成績分布とGPの平均値をWEBで公開している。

北海道大学成績分布WEB公開システム

北海道大学 成績分布WEB公開システム
成績評価分布状況表

※2005年度以降の学部入学者の履修科目を対象としています。
ただし、全学教育科目の2006年度第1学期分は、2006年度入学者を対象としています。
※無欠=評価せず（2006年度入学者から無欠は「不可」評価となりました。）
※2015年度以降の学部入学者から、新GPA制度の導入により、11段階の成績評価方式が採用されています。
5段階評価と11段階評価が混在する科目についてはそれぞれの平均値を2段書きにしています。
※履修者5名以下の科目は除いています。
5段階評価と11段階評価が混在する場合、履修者5名以下の評価のみを除きます。

評価年度・学期	課程	開講学部	データ種別	表示内容	科目名検索	科目数
2021年度 1学期	学士課程	医学部	授業科目・担当教員別	全て		204

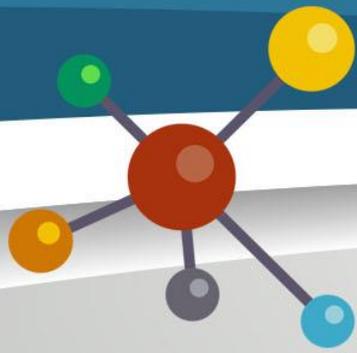
※各科目の上段は11段階の学生、下段は5段階評価の学生をしめす。

表示件数: 30件毎

授業科目名	講義題目名	クラス	担当教員名	履修者数	A+(%)	A(%)	A-(%)	B+(%)	B(%)	B-(%)	C+(%)	C(%)	D(%)	D-(%)	F(%)	GPA
					秀(%)	優(%)	良(%)	可(%)	不可(%)							
121 小児看護学援助論Ⅱ		保健学科[看護学専攻]	佐藤 洋子	70	0.0	0.0	2.9	10.0	11.4	27.1	24.3	24.3	0.0	0.0	0.0	2.56
122 小児看護学概論		保健学科[看護学専攻]	佐藤 洋子	67	62.7	7.5	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	14.9	0.0	0.0	1.5	3.71
123 成人看護学実習Ⅱ		保健学科[看護学専攻]	清部 佳代	69	0.0	11.6	52.2	36.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.59
124 成人看護学援助論Ⅱ		保健学科[看護学専攻]	清部 佳代	69	4.3	21.7	31.9	24.6	10.1	4.3	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	3.53
125 成人看護学援助論Ⅲ		保健学科[看護学専攻]	笠見 尚己	70	12.9	14.3	15.7	28.6	7.1	10.0	1.4	8.6	1.4	0.0	0.0	3.35
126 成人看護学概論		保健学科[看護学専攻]	笠見 尚己	67	9.0	10.4	26.9	20.9	13.4	4.5	10.4	3.0	0.0	0.0	1.5	3.31
127 放射化学		保健学科[放射線技術科学専攻]	堤 香織	38	65.8	10.5	5.3	5.3	10.5	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	3.99
128 放射線治療工学概論		保健学科[放射線技術科学専攻]	石川 正純	38	7.9	15.8	18.4	23.7	18.4	7.9	5.3	2.6	0.0	0.0	0.0	3.37
129 放射線物理学Ⅱ		保健学科[放射線技術科学専攻]	伊達 広行	38	0.0	10.5	13.2	23.7	13.2	13.2	13.2	13.2	0.0	0.0	0.0	3.01
130 放射線物理学基礎		保健学科[放射線技術科学専攻]	伊達 広行	38	7.9	10.5	15.8	2.6	13.2	7.9	15.8	26.3	0.0	0.0	0.0	2.93
131 放射線生物学		保健学科[放射線技術科学専攻]	堤 香織	38	55.3	23.7	10.5	2.6	2.6	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	3.98
132 放射線計測学Ⅱ		保健学科[放射線技術科学専攻]	石川 正純	38	7.9	15.8	10.5	15.8	15.8	15.8	15.8	2.6	0.0	0.0	0.0	3.20

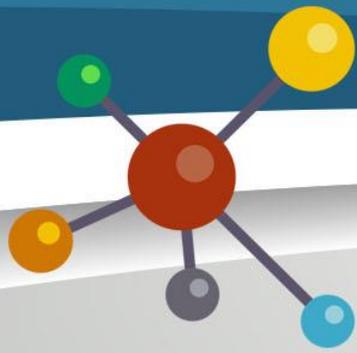
出典：北海道大学成績分布WEB公開システム

(<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/seiseki/GradeDistResult11.aspx>)



成績評価に対する不平不満

- 授業評価アンケートに散見される不平不満
 - ○○先生の方が成績評価は甘いのに、厳しい××先生のクラスに入れられたのは理不尽です。
 - 学期末テストの点はA君より高かったのに、どうして私の成績は彼より低いのでしょうか。
 - 授業に毎回出席したのに、なぜ僕の成績は不可なのだろうか、、、
- 成績評価の方針（アセスメント・ポリシー）を明確にする必要がある。

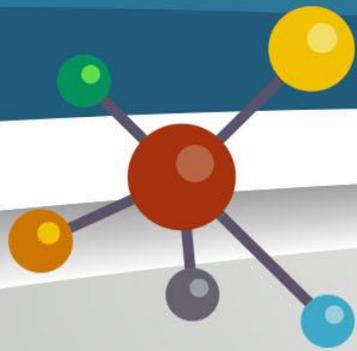


成績評価の基準統一

- 成績評価の結果が属人的なのであれば、改善が必要である。



- 成績評価の基準を全学で統一する。
- そのためには、成績評価のガイドラインを策定する必要がある。



ガイドラインの策定

- 成績評価ガイドラインの主な項目は以下の通り。

① 評価基準（全学統一）

② 各科目の到達目標との整合性

※到達目標の達成度を**観察・検証**できるような評価方法をシラバスに記載する。

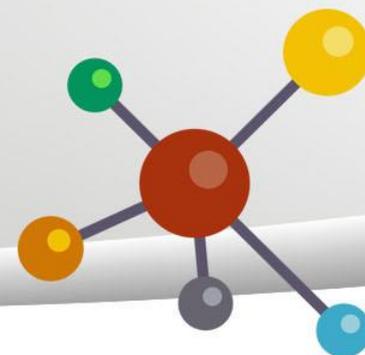
③ 評価結果の点検方法

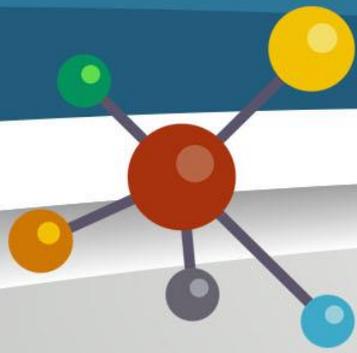
④ 成績分布の公表方法

⑤ 評価結果の説明責任

注：クレームへの対応準備・方法などを記載する。

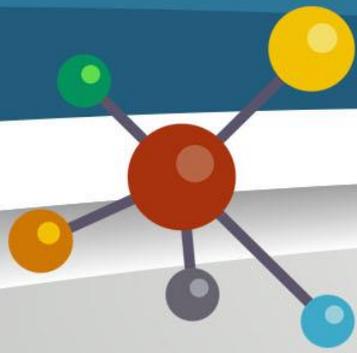
5. まとめ





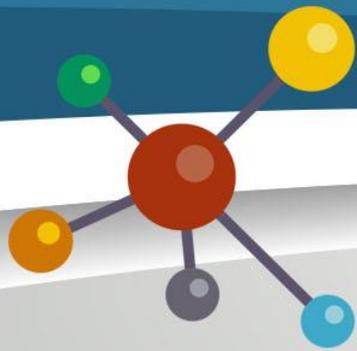
中央教育審議会答申の指摘

- 中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」
（平成20年12月24日）は、成績評価の現状と課題について、下記の指摘をした。
 - 我が国の大学は、成績評価について、個々の**教員の裁量に依存**しており、**組織的な取組が弱い**。従来そのままでは、「大学全入」時代の学生の変容に際し、学生確保という経営上の要請も相まって、なし崩し的に安易な成績評価が広がってしまう恐れがある（26頁）。



具体的な改善方策

- 答申が提示する具体的な改善方策とは、
 - 教員間の共通理解を土台に、**成績評価基準を策定し**、その明示について徹底する。
 - 成績評価の結果について、基準に準拠した適正な評価がなされているかの**組織的な事後チェック**を実施する。
 - 成績評価の通用性を高める策として、学内の教員以外の**第三者の参画**を求める仕組みを検討する（27頁）。



改善のスリーステップ

改善のスリー・ステップへの挑戦を！

1. 成績評価基準の策定と明示

- 成績評価基準を**成績評価ガイドライン**として策定し、全教員で共有することが必要。

2. 組織的な事後チェック

- 成績評価ガイドラインに則って、同僚評価を核とする自律的な**点検の実施**が必要。

3. 第三者の参画

- 他大学の教員（学外試験委員）による互助が必要。

ご清聴ありがとうございました。

